

多田謡子

反権力人権基金

News

No.15 2021/06/10

発行・多田謡子反権力人権基金運営委員会

<https://tadayoko.net>

2020年12月19日

第32回受賞発表会を開催しました



夭折した故多田謡子弁護士の遺産をもとに出発した多田謡子反権力人権基金は、2020年12月19日、東京・お茶の水の連合会館に70名が参加して、第32回反権力人権賞受賞発表会を開催しました。

受賞発表会では、受賞した、宮城秋乃さん（沖縄北部訓練場での軍事廃棄物撤去闘争）、青木恵子さん（冤罪との闘い、冤罪被害者支援の闘い）、北村小夜さん（天皇制・戦争との闘い、障害児・者の人権のための闘い）から講演を受け、基金から多田謡子の著作「わたしの敵が見えてきた」と賞金20万円が贈られました。

コロナ禍、残念ながら恒例の記念パーティはできませんでしたが、すばらしい女性3人の報告を受けて参加者全員が交流を深めました。

コロナ禍は収束せず、入院できずに人びとが死んでいく中で、菅政権はオリンピックを強行しようとしています。自由と人権をめぐる状況はますます厳しさを増していますが、多田基金は本年も12月18日に受賞発表会を開催します。



多田基金は継続のためのカンパを呼びかけています。

第 3 2 回受賞発表会

2020年12月19日 連合会館（東京・お茶の水）

宮城秋乃さん

（沖縄北部訓練場での軍事廃棄物撤去闘争）



昆虫の研究者である宮城秋乃さんが、リュウキュウヒメジャノメやリュウキュウウラボシシジミなど、貴重な蝶を研究するためにやんばるの森に入って見たものは、防衛省によって除去されたはずの大量の軍事廃棄物でした。コロナ禍のため参加できなかった宮城さんは、米軍北部訓練場跡地に残る大量の軍事廃棄物の実態を調査して除去する活動をビデオメッセージで詳細に報告してくださいました。

2016年12月、やんばるの森の広大な土地を占拠してきた米軍北部訓練場の半分以上が返還され、沖縄防衛局が跡地に残る軍事廃棄物の除去にあたりました。しかし対象になったのは道路とヘリパッド跡地などに限定され、深刻な自然破壊、環境汚染からの回復のために、アメリカ本土では10年以上も費やす作業期間も1年とされました。

2016年12月、やんばるの森の広大な土地を占拠してきた米軍北部訓練場の半分以上が返還され、沖縄防衛局が跡地に残る軍事廃棄物の除去にあたりました。しかし対象になったのは道路とヘリパッド跡地などに限定され、深刻な自然破壊、環境汚染からの回復のために、アメリカ本土では10年以上も費やす作業期間も1年とされました。

除去作業の「完了」後、8割以上が沖縄防衛局から沖縄森林管理署に引き渡されました。国の機関から国の機関への「引き渡し」では、軍事廃棄物の除去は本当に完了したのか、自然は回復されたのか、実態はあきらかになりません。実際には、引き渡しから2日後には未使用の訓練用砲弾が見つかり、その後、宮城さんの調査によって、ヘリパッドの跡地やジャングルの中で、不発の空包、空薬きょう、煙幕手榴弾、弾薬箱、ケミカルライト、乾電池、野戦食の空き袋、ブーツ、土嚢、地面に埋まったドラム缶、工事用の鉄板など様々なものが大量に見つかっています。付近の土壌からは危険なため禁止されているDDTやBHCなどの薬物やPCBが検出されているほか、コバルト60という放射性元素が封入された廃棄物も見つかりました。

離着陸を繰り返したヘリパッドの跡地は土地の凹凸が激しく疲弊していました。「返還」は沖縄の負担軽減ではなく、疲弊した軍事施設の引き渡しであり、米軍は使えなくなった施設を「返還」して、高江に新しいヘリパッドを作ったのです。高江の土地

が疲弊したら、また同じことをするのでしょうか？

軍事廃棄物が残っていることを知りながら、沖縄防衛局は除去完了を発表し、環境省は返還された土地の大部分をやんばる国立公園に編入しました。廃棄物や土地の汚染を解決しないままの編入は国立公園の目的と矛盾するのはあきらかです。

米軍は、市街地では清掃作業をして見せながら、市民の目が届かない場所では、自然を大きく破壊しています。「返還」されたはずの訓練場跡地に、その後も米軍ヘリが着陸した事例や、着陸を試み発見され飛び去った事例も報告されています。訓練場だったから自然が守られたという嘘が流布されていますが、軍事施設・軍隊と自然保護は決して両立しないのです。

宮城さんは発表会に参加した人にむけて、これからも米軍による自然破壊を監視し続けてほしいとのべてメッセージを終えました。

青木恵子さん

（冤罪との闘い、冤罪被害者支援の闘い）



青木恵子さんは、1995年、大阪市にあった自宅の火事で娘さんをなくしました。悲しみと自責の念にかられていたところ、保険金目当てに自宅に放火して娘を殺した容疑で逮捕されました。

「密室での取り調べは、とても恐ろしいものです。言葉の暴力は、実際の暴力より恐ろしい。やっていないといくら言っても信じてくれない。しまいには、出られるんだったら何でもいい、これを書いたら出られると思って私は自白しました」

当時は冤罪という言葉さえ知らず、警察は市民の味方だと思っていた青木さんが、25年前を思い出し、震える声をしぼり出すように話す姿からは、冤罪が作られていく恐ろしさが伝わり、会場全体が静かになりました。

分かってくれると思った裁判所で無期懲役が確定します。無実の者がなんで無期懲役になるのか！ 一生出られないのか！ 絶望した青木さんですが、無実を信じた人びとの支援活動が広がります。

「顔も知らず、会ったこともない人が私を信じてくれました。布川事件の桜井昌司さんが訪ねてくれて、俺は29年間獄にいたが釈放された。青木さんの事件はもっと簡単だからすぐに出られるよ、と言ってくれ大変励まされました。」

ホンダの車に欠陥があり、ガソリンが漏れて発火すること、自供通りに火をつけられないことが再現実験で確かめられ、再審の開始が決定されます。しかし、一旦決まった拘留の停止は、釈放から10分前に高裁によって取り消され、天国から地獄に突き落とされた青木さんは、さらに3年半後ようやく釈放されました。

20年獄にいたうちに世界はすっかり変わっていました。「何度も刑務所に戻りたいと思った」。子どもは大人となり、家族との生活が出来ていました。元の家族に戻ることは出来ませんでした。「しかたがないと思います。でも、不十分でも母を見取り、父親はそばについて介護して看取ることができました」と青木さんは、嬉しそうに話しました。

青木さんは今、冤罪の責任を問うための国家賠償訴訟を闘いながら、全国を飛び回って冤罪の犠牲者を励ます活動を続けています。

青木さんのお話は、普通につつましく生きる庶民が、警察によって冤罪の犯人とされ獄に繋がれる可能性があること、冤罪は晴れても、失われた家族との生活は戻らないことを教えていました。「刑事は何で嘘をついたのか。机を叩いて脅したことなどない、と平気で嘘を言う。何で証拠を開示しないのか。国賠訴訟で刑事を警察を問いつめたい」「冤罪で20年獄にいた私にしか話せないことがある。桜井さんに励まされた私が、今度は冤罪被害者を助けるために頑張っていきたい」青木さんが最後に決意を述べると会場からは大きな拍手が沸き、嘘をついて冤罪をつくり恥じることのない日本の国のあり方への怒りがすべての参加者のものになりました。

北村小夜さん

(天皇制・戦争との闘い、
障害児・者の人権のための闘い)



1925年、治安維持法が制定された年に生まれ、95歳になる北村小夜さんは、日の丸・君が代が大好きな軍国少女として成長し、従軍看護婦となって旧満州にわたりました。「天皇のための戦争に費やした大切な青春をとりもどそうと生きてきたが、まだ取り戻

せていない」と北村さんは述べました。

戦後教育は、「これからは押し付けではなく、教師と子供たち自身が考えながら作っていく」と言われて始まりました。小学校の教員となった北村さんは、子供たちと一緒に新しい憲法について考えました。「天皇は象徴？象徴とは何だろう。何日も子供たちと考えて出した結論は、『象徴とは、あってもなくてもいいものだ』だった」というお話に、会場はどっと笑いに包まれました。「あの頃、親も子供も教師も一緒に喜ぶことのできる教育があった。その時代を取り戻したいという気持ちをずっと持っています」と北村さんは話しました。

1958年に学習指導要領が告示され、60年代、教育に国旗・国歌が導入されて道徳教育が本格化し、学力の向上が盛んに言われるようになります。落ちこぼれという言葉が生まれ、特殊教育が始まると「出来ない子」を特殊学級に分けることが始まります。

「出来ない子」に教えることのできる教師になると、1年間大学で学んだ北村さんは特殊学級の教員として中学に赴任します。スーツを来て新任式に臨んだ日、「先生も落第してきたの？」と聞かれ、生徒から「先生なら大丈夫だよ。もう一度試験を受けて普通にもどりな」と励まされた北村さんは、赴任したその日に、子供たちは分けられたくないのだと悟り、来たくない子、望まない子は特殊学級に入れなくておこうと心に決めました。

分けることに反対する子供と親、教師の運動は起きましたが、実際には、学校はますます分けられ、細分化が進んでいます。被害を受けるのは分けられた子供たちだけではありません。障害のある子供が排除され、いないものとして扱われる教室で学んだ子供たちは、障害を持つ子と一緒に学び、暮らすことで見えてくるさまざまなことを奪われて、否応なく排除する側におかれてしまいます。

こんな状況になってしまったのはなぜだろう？若い教師たちにどう言うのか？これくらいですんでいるのは私たちが頑張ってきたからだ胸を張って言うべきか、それとも、私たちの頑張りが足らずこういう状況になってしまった。申し訳ない、というべきなのか？最後に北村さんはこう会場に投げかけました。常に目の前の社会、目のまえの教室から目をそらさず、子供たちの声を聞きながら、分けること、排除することのない、親と子供、教師がともに喜ぶことのできる教育をめざして、決して戦争に向かうことのない教育をめざして、頑張り続けてきた北村さんに大きな拍手がわきました。

多田基金の詳しい情報はホームページでご覧いただけます。 <https://tadayoko.net>

第33回多田謡子反権力人権賞 候補者推薦のお願い

2021年6月
多田謡子反権力人権基金運営委員会

本年度も、下記要領で多田謡子反権力人権賞の候補者推薦を受け付けます。自薦、他薦は問いません。多数のご推薦をお待ちしています。(これまでの受賞者は当基金のホームページで閲覧できます。)

※※※多くの皆さまのご支援により、本年から副賞賞金を30万円に増額することができました。大変ありがとうございます。※※※

- ・賞の内容
多田謡子の著作「私の敵が見えてきた」および金30万円の贈呈
- ・選考基準
国家権力をはじめとしたあらゆる権力に対して闘い、自由と人権を擁護するために活動している個人または団体
- ・推薦方法
自薦、他薦とも可。候補者名と活動分野の簡単な紹介を付して、文書で下記住所に郵送、FAXまたはe-mailでお送りください。
- ・推薦締切
2021年9月30日
- ・推薦受付先
〒105-0004
東京都港区新橋2-8-16
石田ビル5F 救援連絡センター気付
多田謡子反権力人権基金運営委員会
TEL 03-3591-1301
FAX 03-3591-3583
e-mail web@tadayoko.net
お問い合わせにはできるだけe-mailをご利用ください。なお、受賞者には受賞発表会での講演を希望いたします。

12月18日(土)受賞発表会を開催する予定です。

- 第33回多田謡子反権力人権賞受賞発表会
 - 日時 12月18日(土) 午後2時~5時
 - 場所 連合会館201号室
東京・御茶ノ水駅から徒歩5分
 - 発表会后、同所で記念パーティーを行います。
 - 発表会、パーティーとも参加費無料です。
- ※ コロナ禍により予定変更の可能性があります。



基金継続のための寄付のお願い

郵便振替用紙を使った振込み

寄付と明記し、氏名、住所をお書き下さい
口座番号 00110-2-356484
口座名称 多田謡子反権力人権基金

金融機関の口座からの振込み

- ◎ 記号・番号を使った振込み
・ 記号 00110 ・ 番号 356484
- ◎ 店名(店番)を使った振込み
・ 銀行名 ゆうちょ銀行
・ 店名 〇一九店(ゼロイチキューウ)
・ 店番 019
・ 預金種目 当座
・ 口座番号 0356484
・ タダヨウコハンケンリョクジンケンキキン
(金融機関からの振込ではお名前、ご住所がわかりません。メールでお知らせいただければ領収証をお送りします)

多田謡子反権力人権基金 News

No. 15 2021年6月10日発行

編集・発行 多田謡子反権力人権基金運営委員会

〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5F 救援連絡センター気付
TEL 03-3591-1301 FAX 03-3591-3583 e-mail web@tadayoko.net